

(様式第 10)

金医大病管第 6 号  
平成 30 年 10 月 9 日

厚生労働大臣

殿

学校法人 金沢医科大学  
理事長 高島 茂樹 (印)

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地
氏 名	学校法人 金沢医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

金沢医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地 電話( 076 ) 286 - 3511
---

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無
内科と組み合わせた診療科名等	① 呼吸器内科 ② 消化器内科 ③ 循環器内科 4 腎臓内科 ⑤ 神経内科 6 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科 9 感染症内科 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11 リウマチ科	
診療実績	内視鏡内科 腫瘍内科	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	⑥ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥ 心臓血管外科 7内分泌外 ⑧ 小児外科	
診療実績 形成外科	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科 ② 小児科 ③ 整形外科 ④ 脳神経外科 ⑤ 皮膚科 ⑥ 泌尿器科 7 産婦人科 ⑧ 産科 ⑨ 婦人科 ⑩ 眼科 ⑪ 耳鼻咽喉科 ⑫ 放射線科 13放射線診断科 14 放射線治療科 ⑮ 麻酔科 ⑯ 救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	⑥ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ① 小児歯科 ② 矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 病理診断科	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21					

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	0床	0床	0床	799床	835床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成30年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	349人	99人	397.6人	看護補助者	103人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	1人	8.1人	理学療法士	32人	臨床検査技師	64人
薬 剤 師	55人	0人	55人	作業療法士	16人	衛生検査技師	0人
保 健 師	3人	1人	3.4人	視能訓練士	10人	その他	0人
助 産 師	26人	1人	26.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	758人	27人	778.0人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	2人	2人	3.1人	栄 養 士	11人	その他の技術員	26人
歯科衛生士	7人	1人	8.9人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	103人
管理栄養士	15人	0人	15人	診療放射線技師	35人	その他の職員	58人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	26人	眼科専門医	4人
外科専門医	20人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	7人
小児科専門医	9人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	3人	整形外科専門医	10人
泌尿器科専門医	5人	麻酔科専門医	8人
産婦人科専門医	6人	救急科専門医	7人
		合 計	125人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 北山 道彦 ) 任命年月日 平成29年4月1日

病院長として、医療安全管理責任者を統括する他、医療安全管理委員会委員長、医療問題調査委員会委員長を兼任し、医療事故の防止及び発生時における患者、医療従事者の安全確保を行っている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	557.6 人	4.6 人	562.2 人
1日当たり平均外来患者数	895.8 人	36.2 人	930.4 人
1日当たり平均調剤数	644.1 剤		
必要医師数	114.4 人		
必要歯科医師数	3.0 人		
必要薬剤師数	19 人		
必要(准)看護師数	314 人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数			
集中治療室	874.6 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	26 床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 295.5 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 8 台		病床数	41 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 61.3 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 なし					
化学検査室	180 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 臨床化学自動分析装置			
細菌検査室	132 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物感受性分析装置			
病理検査室	251 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動中性緩衝ホルマリン固定液作製装置、迅速自動固定包埋装置、密閉式自動固定包埋装置、凍結マイクローム、安全キャビネット、自動染色装置、自動免疫染色装置、顕微鏡			
病理解剖室	239 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染症防止対策用解剖台、臓器撮影装置、体重計付ストレッチャー			
研究室	7,906 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	560 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	420 人
図書室	1,858.4 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	10 室	蔵書数	192,820 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	67.1%	逆紹介率	63.6%
算出根拠	A：紹介患者の数			9,845 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,327 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,046 人
	D：初診の患者の数			16,222 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山崎 光章	富山大学附属 病院 麻酔科教授	○	医療安全業務従 事者	有・無	1
鶴澤 剛	金沢大学大学 院法務研究科 准教授		法律学業務従事 者	有・無	1
市川 政枝	金沢星稜大学 人間科学部 元非常勤講師		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 病院のホームページに掲載	





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	拡大蝶形骨手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経外科) トルコ鞍近傍に発生する頭蓋底腫瘍や脳腫瘍に対して、経鼻的に蝶形骨頭蓋底を拡大開窓して腫瘍を摘出します。MRIおよびCT合成3D画像にて術中ナビゲーションを行い、4K内視鏡と顕微鏡を使用したハイブリッド手術をおこないます。			
医療技術名	深部脳実質腫瘍に対してナビゲーションと神経内視鏡を用いた脳腫瘍生検法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 神経内視鏡(硬性鏡)を用いて行う生検法で、ニューロポートシースの内筒にSure Trak®を取り付けナビゲーションにてガイドできるようにする。内視鏡の固定はエンドアーム®を用いて、硬性鏡で観察を行いながら直視下に生検と止血操作を行う。			
医療技術名	遺伝子解析による遺伝性内分泌疾患の診断	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(内分泌・代謝科) 希少遺伝性内分泌疾患(多発性内分泌腫瘍[MEN]1型, 同2型, 遺伝性褐色細胞腫/パラガングリオーマ, Kallmann症候群, 等)につき、末梢白血球からゲノムDNA, または摘出組織からmRNAを抽出, PCR産物のシーケンスにより遺伝子診断を行っている。			
医療技術名	髄液および血液リンパ球のフローサイトメトリーを用いた炎症性疾患の診断と治療	取扱患者数	93人
当該医療技術の概要(神経内科) 中枢神経内の炎症や免疫の状態は、通常髄液のルーチン検査として細胞数や蛋白、IgGの値から推定して病態を評価せざるを得ないのが現状である。しかし、髄液採取に際して一部の検体を低温下、低速遠心をかけて髄液細胞を回収し、その細胞の表面および内部の抗原をCD4, CD8, CD25, CD29, CD56, CCR3, CCR4, CCR5, CXCR3等に対するモノクローナル抗体で染色し、血液での結果と比較することにより、どのような役割を担ったリンパ球が髄液内で増加あるいは減少しているかを採取同日に知ることができる。この方法により、中枢神経内で起こっている炎症性病態を的確に把握し、正確な診断と治療選択を行うことで患者予後を改善している。			
医療技術名	高度進行胃癌・根治切除困難胃癌に対する術前化学療法と胃癌根治手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要(一般・消化器外科) 高度な局所進展や広範なリンパ節転移のために根治切除が困難な胃癌症例の手術治療成績は不良である。しかし近年、切除不能胃癌であっても化学療法で根治切除可能な状態に持ち込める症例が散見される。根治切除困難な胃癌を対象に、外科切除に先立って術前化学療法を行い、根治切除率と生命予後の改善を目指している。			
医療技術名	局所進行膵癌に対する術前放射線化学療法と根治手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(一般・消化器外科) 膵臓癌は最も予後不良な癌の一つで、特に手術単独では殆ど根治的治療は望めない。局所進行あるいはボーダーライン切除不能な膵臓癌に対して、術前放射線化学療法を施行し、その後に根治手術を組み合わせる集学的治療を施行している。			
医療技術名	ICG蛍光ガイド下手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(一般・消化器外科) ICG蛍光を高感度に検出可能な小型装置の開発に伴い、血管・リンパ管・胆管などの可視化や管腔外からの病巣位置特定などを可能とする、ICG蛍光ガイド下手術が試みられている。消化器手術全般を対象に、ICG蛍光法をガイドとした、安全かつ容易な鏡視下手術の新規技術開発を試みている。			
医療技術名	顎矯正手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要(歯科口腔科) 顎顔面頭蓋の成長・発育異常による上下の骨格の不調和に歯の位置の異常が加わることにより、重度の咬み合わせの異常と顔面の変形を呈する顎変形症に対して、歯科矯正治療と外科的な顎骨の骨切り手術を併用した外科的矯正手術を行っています。治療の対象は上顎前突症、下顎前突症、上下顎前突症、上顎後退症、下顎後退症、開咬症、顔面非対称です。			
医療技術名	コンピューター支援による顎骨再建術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(歯科口腔科) 顎骨腫瘍などにより下顎骨を切除した際の金属プレートによる即時再建の際に、術前画像所見からコンピューターにより作成した3次元模型により、術前に再建金属プレートの形態調整を行い、手術時間を大幅に短縮する方法である。			
医療技術名	習慣性顎関節脱臼に対する局所麻酔下顎関節形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(歯科口腔科) 高度の認知症や高齢者の有病者などに対し、全身麻酔下における負担を軽減させるために局所麻酔下において習慣性顎関節脱臼の治療法として関節結節(あるいはあわせて下顎頭の上部)を削除する方法である。			

医療技術名	ダットスキャン (ドパミントランスポーターシンチグラフィ)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 (高齢医学科)			
ダットスキャンを用いたSPECT検査を既存の診断情報に追加することにより、レビー小体型認知症の診断に貢献する。また、ダットスキャンの線条体への集積低下はレビー小体型認知症国際臨床診断基準において示唆症状の一つに挙げられている。			
医療技術名	希少メンデル遺伝性疾患の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 (ゲノム医療センター)			
保険収載されている遺伝子検査、指定難病や小児慢性特定疾患の申請に必要な遺伝子検査、その他の責任遺伝子が判明しているメンデル遺伝性疾患の遺伝子検査のうち、現状で”検査会社が受注していないもの”を対象に、遺伝カウンセリングを行った上で、本人や家族の希望に沿う形で遺伝子検査を実施。検査結果は再診時に遺伝カウンセリングと並行して説明。紹介医と連携し、遺伝学的管理指針をレポートにして提供。希少遺伝性疾患患者の医療に役立っている。			
医療技術名	微細染色体構造異常の遺伝カウンセリングとDNAマイクロアレイ検査	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 (ゲノム医療センター)			
多発先天奇形症候群を対象に通常の染色体分析(G分染法)では診断できない微細染色体構造異常を、DNAマイクロアレイ検査を用いて診断している。診断の前後に遺伝カウンセリングを行い、患者家族に説明を行っている。また検査により合併症の予測が可能となる場合もあり、主治医と連携して治療にあたっている。			
医療技術名	肺腫瘍に対する胸腔鏡下ICG蛍光ナビゲーション肺区域切除術に関する臨床研究	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科)			
インドシアニングリーン(ICG) およびStorz Professional Image Enhancement System(SPIES)を用い、肺組織の血流量を可視化することで、適切な肺区域切除ラインを同定することが可能となる。			
医療技術名	MRIとPETの両者の結果の解析による肺腫瘍の良悪性および病期の診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科)			
肺腫瘍の非観血的診断に関してPET-CTは広く応用されているが、隣接臓器浸潤の診断以外の目的でMRIを併用することは少ない。我々の研究では、MRIを併用することにより良悪性の診断のみならず、リンパ節転移の正診率が著明に向上することが判明した。非侵襲的な検査としてきわめて有用な検査となっている。			
医療技術名	全身MRIによる原発性肺癌の血行性転移の検索	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科)			
全身MRIによる病巣の質的診断は、我々の研究により原発性肺癌の血行性転移の発見にも期待が持てることが判明している。拡散強調画像を用いた全身MRIにより、肺癌の血行性転移病変の発見はより容易となっている。			
医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要 (腎臓内科)			
従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体(C4d, C3d, HLA-DR, CoL4 $\alpha$ 5/ $\alpha$ 2, HLA-G1, CD45, CoL1)の検索によって、より高度の診断およびこれに基づいた治療が可能である。			
医療技術名	自己免疫性および悪性腫瘍関連膜性腎症の診断と治療	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 (腎臓内科)			
膜性腎症の診断において、内因性抗原として膜型ホスホリパーゼ A2 受容体 (M-type phospholipase A2 receptor, PLA2R) および悪性腫瘍関連も指摘されているトロンボスポンディンタイプ1ドメインコンテイング7A(Thrombospondin type-1 domain-containing 7A, THSD7A)および免疫グロブリンGサブクラスを組み合わせたより高度の質的診断およびこれに基づいた免疫抑制療法が可能である。			
医療技術名	選択性血漿交換療法の自己免疫性疾患に対する治療応用	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 (腎臓内科)			
従来の血漿交換と比較して、より免疫グロブリンGを選択的に除去するとともにフィブリノーゲン等の高分子蛋白を保持する新たな選択的血漿交換療法を自己抗体と関連する各種免疫疾患(膠原病, 血液疾患, 神経疾患, 腎疾患)に適応するとともに免疫抑制療法あるいは大量 $\gamma$ グロブリン療法と組み合わせることでより有効かつ安全な治療が可能である。			
医療技術名	CTガイド下ラジオ波焼灼療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 (肝胆膵内科)			
通常、肝腫瘍の治療として腹部超音波ガイド下でラジオ波焼灼療法を行うが、超音波検査で腫瘍が描出できない場合や腫瘍の周囲に血管や胆管が存在し安全な穿刺ルートが確保できない場合に、リアルタイムにCT画像をみながら腫瘍を穿刺し焼灼する方法で、より確実で安全な方法である。			
医療技術名	内視鏡下甲状腺腫瘍手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 (頭頸部・甲状腺外科)			
甲状腺腫瘍は従来、頸部外切開による手術が行われてきたが、内視鏡機器を用いることで、微細な神経や血管などの構造を確認できるため安全確実に手術を行うことができるようになった。さらに術後創部が目立つ頸部については本術式が審美的問題への対応も可能な手術法である			

医療技術名	濾胞性病変の術前診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(頭頸部・甲状腺外科)			
<p>甲状腺濾胞性病変はこれまで術前において細胞診や画像検査では濾胞癌と良性濾胞性病変と鑑別が困難であった。超音波、MRI,RIなどは個々の診断精度が十分ではないが、当該診断手法は各検査を統合したマルチモダリティ法により濾胞癌の診断精度を向上する事が可能であり、限られた時間的、人的資源を効果的に本来手術に費やすことが可能となる。</p>			
医療技術名	鼻・副鼻腔腫瘍に対する頭蓋底手	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(頭頸部・甲状腺外科)			
<p>鼻副鼻腔疾患に対する手術の発展は著しい。特に悪性腫瘍を含めた鼻副鼻腔腫瘍に対する前頭蓋手術は汚染され鼻腔と頭蓋内が連続する創部であり術後の瘻孔の形成等は重篤な感染の原因となる。そのため手術適応を十分に検討した上で、脳神経外科、形成外科との合同で安全に前頭蓋底切除手術を施行している。</p>			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	38
2	筋萎縮性側索硬化症	24	57	特発性拡張型心筋症	32
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	137	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	11	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンテントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	41
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	49	66	IgA 腎症	29
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	73	68	黄色靱帯骨化症	16
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	11	69	後縦靱帯骨化症	140
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	76
17	多系統萎縮症	34	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	49	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	39
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	13
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	27	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	32
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	72
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	5	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	57
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	25
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	7
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	12
34	神経線維腫症	14	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	4	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	39
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	19	95	自己免疫性肝炎	4
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	50
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	120
43	顕微鏡的多発血管炎	23	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	4	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	16	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	パージャール病	20	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	116	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	36	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	61	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	17	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	47	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	2	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モット症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	5	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	25	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	3
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	2
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	12
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	3
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクロームスアテんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算2
・歯科外来診療環境体制加算	・入退院支援加算2(入院時支援加算)
・歯科診療特別対応連携加算	・認知症ケア加算1
・特定機能病院入院基本料(一般7対1、精神13対1)	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料4 (広範囲熱傷特定集中治療管理料)
・医師事務作業補助体制加算1(40対1)	・新生児特定集中治療室管理料1
・急性期看護補助体制加算 25対1(5割未満)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算2(12対1)	・小児入院医療管理料2
・看護補助加算2	・回復期リハビリテーション病棟入院料3
・療養環境加算	・患者サポート体制充実加算
・重症者等療養環境特別加算	・緩和ケア診療加算
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神病棟入院時医学管理加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(地域連携加算)(抗菌薬適正使用支援加算)	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・後発医薬品使用体制加算4	・
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料イ、ロ、ハ	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・外来緩和ケア管理料	・胎児心エコー法
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・人工臓器検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・皮下連続式グルコース測定
・院内トリアージ実施料	・光トポグラフィー
・外来放射線照射診療料	・神経学的検査
・ニコチン依存症管理料	・補聴器適合検査
・療養・就労両立支援指導料 相談体制充実加算	・ロービジョン検査判断料
・がん治療連携計画策定料	・コンタクトレンズ検査料1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・小児食物アレルギー負荷検査
・薬剤管理指導料	・内服・点滴誘発試験
・医療機器安全管理料1	・センチネルリンパ節生検(片側)1, 2
・医療機器安全管理料2	・CT透視下気管支鏡検査加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・画像診断管理加算1
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	・画像診断管理加算2
・歯科治療時医療管理料	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・在宅総合医療管理加算(歯科疾患在宅療養管理料)	・CT撮影及びMRI撮影
・在宅患者歯科治療時医療管理料	・冠動脈CT撮影加算
・持続血糖測定器加算	・心臓MRI撮影加算
・遺伝学的検査	・乳房MRI撮影加算
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・小児鎮静下MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・検体検査管理加算(IV)	・外来化学療法加算1

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・無菌製剤処理料	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・腫瘍脊椎骨全摘術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん患者リハビリテーション料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・救急患者精神科継続支援料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・認知療法・認知行動療法1医師による場合	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・精神科作業療法	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・医療保護入院等診療料	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・硬膜外自家血注入	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・人工腎臓1	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・人工膵臓療法	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・CAD/CAM冠	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・皮膚移植術(死体)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・体外衝撃波胆石破碎術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下肝切除術(1, 2のみ)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・同種死体腎移植術	・病理診断管理加算2
・生体腎移植術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・口腔病理診断管理加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・歯科矯正診断料
・輸血管管理料 I	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・輸血適正使用加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・レーザー機器加算の施設基準	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
音の時間分析に必要な内部時間指標の生成機構と地図表現の解明	伊藤 哲史	解剖学Ⅱ	¥2,800,000	補委	(独)日本学術振興会
現代の飲食物が関与する細胞内毒性終末糖化産物の生成/蓄積と各種細胞障害機序の解明	竹内 正義	先端医療研究領域	¥7,900,000	補委	(独)日本学術振興会
分化リプログラム技術を用いたマウス及びヒト貪食細胞の樹立とその応用	小内 伸幸	免疫学	¥3,800,000	補委	(独)日本学術振興会
母胎間シグナル伝達による胎児大脳皮質ニューロン産生の誘導機構	八田 稔久	解剖学Ⅰ	¥3,000,000	補委	(独)日本学術振興会
おとり遺伝子による多分子同時阻害を標的とした純国産型癌遺伝子治療法の開発	石橋 浩晃	顎口腔外科学	¥3,600,000	補委	(独)日本学術振興会
携帯端末を用いた膀胱留置カテーテル閉塞予防医師・看護師・介護者協働システムの構築	前田 修子	看護学部	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
アルツハイマーモデル動物・辺縁系神経細胞の電気およびCa <sup>2+</sup> 蛍光活動インヒビション同時解析	加藤 伸郎	生理学Ⅰ	¥7,800,000	補委	(独)日本学術振興会
療養病床病院におけるスキンケアの質保証:近未来型皮膚障害予防・管理支援の整備	紺家 千津子	看護学部	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
慢性低酸素性肺高血圧症の新規診断治療法の開発-高地居住者の分子遺伝学的解析-	水野 史朗	呼吸器内科学	¥4,800,000	補委	(独)日本学術振興会
ダイオキシンによる小児自閉スペクトラム症と体内時計の変化に関する分子疫学的研究	西条 旨子	公衆衛生学	¥3,900,000	補委	(独)日本学術振興会
細胞骨格接着分子プレクチンの放射線誘発DNA損傷応答における新規機能の解明	松井 理	生化学Ⅰ	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
リン酸化シグナルをターゲットにした非遺伝毒性発がん物質スクリーニング法の開発	吉崎 尚良	小児外科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
中枢神経における細胞内M1ムスカリン受容体の発現メカニズムと記憶・学習との関係	村松 郁延	薬理学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
心血管イベントの予測因子としての脂質代謝酵素動態の解明	小林 淳二	総合内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
抗がん剤による膵がん細胞の浸潤形質獲得の分子機構の解明とがん治療への応用	島崎 猛夫	先端医療研究領域	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
冠れん縮性狭心症の酸化ストレスに影響を及ぼす新たな危険因子の特定	河合 康幸	循環器内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
急性肺傷害におけるリグリン脂質の解析と同アシル基転移酵素遺伝子導入の効果	長内 和弘	呼吸器内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
脱ユビキチン化酵素USP10による造血幹細胞および白血病幹細胞維持機構の解明	樋口 雅也	微生物学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
IgG4関連疾患の炎症性単球発現分子および免疫グロブリン対応抗原の同定	正木 康史	血液免疫内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
IgG4関連疾患の炎症の発生と収束にかかわる脂質メディエーターとそのバランス制御	岩男 悠	健康管理センター	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会

プロテオミクスの手法を用いたIgG4関連疾患特異的に変動するタンパク質の機能解析	河南 崇典	血液免疫内科学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
川崎病性血管炎が弾性血管のウインドケッセル機能に与える影響とその機序の解明	中村 常之	小児科学	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
ゼブラフィッシュによる薬物の発生毒性評価～マウス・ラットとの比較～	坂田 ひろみ	解剖学 I	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
胎盤を介した分子シグナルリレーによる血液脳関門形成制御機構の解明	島田 ひろき	解剖学 I	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
頭頸部癌化学放射線療法における新たな画像解析法による効果および予後予測法の確立	的場 宗孝	放射線医学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
ステロイド誘発骨壊死分子機構の実証: Cre依存性細胞特異的遺伝子欠損マウスの応用	市堰 徹	整形外科学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
がん患者の睡眠改善を目的としたタクティールケア介入と効果実証	坂井 恵子	看護学部	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
看護教員が授業研究について体系的に学ぶためのプログラムの開発	池内 里美	看護学部	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
認知症家族介護者の介護技術としてタクティールケアを導入した支援プログラムの開発	小泉 由美	看護学部	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
DNA損傷を負った細胞が生死の運命を決定する時期と要因の解明	橋本 光正	一般教育機構	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
体力向上と体力に関する知識を理解させることを意図した球技の指導計画の有効性	津田 龍佑	一般教育機構	¥2,200,000	補委	(独)日本学術振興会
かたちから探る聴覚情報表現	伊藤 哲史	解剖学 II	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
転写因子Tfcp2l1を介した129系統マウスES細胞の安定な自己複製機構	大塚 哲	生命科学研究領域	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
ヒト海馬の分節性と血管の分布様式における三次元的解析	木南 利栄子	解剖学 II	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
メタボリックシンドロームに対する抗酸化酵素PRDX4の予防メカニズムの解析	山田 壮亮	臨床病理学	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
メンデル遺伝病の補完遺伝子検査システムの構築と遺伝医療における社会実装	新井田 要	先端医療研究領域	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
社会経済格差とがん検診発見、早期診断および生存率との関連	西野 善一	公衆衛生学	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
大規模職業集団における定年退職前後の生活習慣、保健行動の変化に関する検討	中島 素子	看護学部	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
オキサリプラチンの血液・神経毒性に対する人参養老湯の臨床効果とその分子機構	元雄 良治	腫瘍内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
SM胃癌に対するセンチネルナビゲーション下内視鏡的全層切除術の開発	伊藤 透	消化器内視鏡学	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病性心筋症の心筋組織中の終末糖化産物と酸化ストレスの関係	青木 洋文	循環器内科学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患における気腫多様性と治療反応性に関する分子生物学的解析	水野 史朗	呼吸器内科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会

摂食調節因子nesfatin-1による脂肪組織交感神経活性化機構の解析	谷田 守	生理学Ⅱ	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
塩化ラジウム-223治療におけるリンパ球DNA損傷に関する研究	渡邊 直人	放射線医学	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
新しい全身性拡散強調画像と見かけの拡散係数の肺癌診療への応用とその背景病態の解明	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
光遺伝学を応用した下丘脳神経路の音情報処理回路の解析	小野 宗範	生理学Ⅰ	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
新規画像評価法による嗅覚障害からアルツハイマー病早期診断法の開発	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
眼部紫外線被ばく量指標としての眼裂斑程度と老視発症との関係	初坂 奈津子	眼科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
太陽光被ばく指標としての初期眼裂斑による近視発症リスク評価	佐々木 洋	眼科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
アナフィラキシーショックにおけるAngiopoietin 2の役割	芝本 利重	生理学Ⅱ	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴミエリン合成酵素を標的とした口腔癌のリンパ節転移阻害機序の解明	松本 剛一	顎口腔外科学	¥1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
占領期の養護教諭構想に対するPHW看護課の介入ーGHQ文書による検証ー	滝内 隆子	看護学部	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
マウスを用いたリンパ浮腫発生機序から浮腫軽減や線維化を防止する効果的なケアの開発	浅野 きみ	看護学部	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
抗がん剤治療を受ける患者の静脈穿刺困難をなくすー硬結の予防のための新戦略の開発ー	松井 優子	看護学部	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
アクションリサーチに基づいた成人2型糖尿病患者のレジリエンス教育プログラムの開発	村角 直子	看護学部	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
深部静脈血栓症予防用弾性ストッキングによる圧迫創傷予防のためのケアシステムの構築	木下 幸子	看護学部	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
好中球分化における糖鎖及びガレクチン9の役割の解明	有川 智博	一般教育機構	¥1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
脳転移肺がん細胞の薬剤応答と初期耐性のキネティクス解析に基づく新規治療法の開発	平田 英周	病理学Ⅰ	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
TAR症候群原因遺伝子産物Y14におけるリン酸化制御解析	石垣 靖人	生命科学研究領域	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
Wntシグナル伝達経路に着目した未分類肉腫分類の試み	甲野 裕之	看護学部	¥2,100,000	補委	(独)日本学術振興会
大腸癌先進部の細胞塊の代謝とリンパ管浸潤	清川 悦子	病理学Ⅰ	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
サフォードウイルス感染受容体の同定と機能解析	大桑 孝子	微生物学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
やせ、正常体重、および肥満者の代謝異常発症に影響する健康行動・社会的要因の違い	櫻井 勝	衛生学	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
腸内フローラと心機能および動脈硬化、さらに動脈硬化進行との関連	長澤 晋哉	公衆衛生学	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会

ストレスに対するRCAN1遺伝子の制御機構解明	神田 享勉	金沢医科大学	¥2,300,000	補委	(独)日本学術振興会
グルタミン酸による心房細動誘発機序の解明	高野 信太郎	循環器内科学	¥1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
慢性腎臓病の石灰化冠動脈病変を標的とした新規microRNAsの探索	赤尾 浩慶	循環器内科学	¥1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
S-アデノシルメチオニン(SAM)代謝の変異の糖尿病腎症の病態に果たす役割の解明	北田 宗弘	糖尿病・内分泌内科学	¥1,700,000	補委	(独)日本学術振興会
不飽和多価脂肪酸の認知症周辺症状に対する治療効果について	上原 隆	精神神経科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
HGF/MET axisの本質的制御によるスキルス胃癌の革新的標的治療法の開発	安本 和生	腫瘍内科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
肺癌術後再発biomarkerの探索とその臨床応用	浦本 秀隆	呼吸器外科学	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
胎盤栄養膜細胞の浸潤性細胞への分化制御におけるガレクチンファミリーの役割	東海林 博樹	一般教育機構	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
癌特異的プロモーターと磁性ナノ粒子を応用した婦人科癌における末梢血中腫瘍細胞解析	高倉 正博	産科婦人科学	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
パーキンソン病における嗅覚障害の分子イメージング研究	志賀 英明	耳鼻咽喉科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
水晶体混濁を透明化させる制御機構と治療戦略の解明	久保 江理	眼科学	¥1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
情報通信技術を用いた発達障害児災害危機管理システムの開発	中井 寿雄	看護学部	¥1,700,000	補委	(独)日本学術振興会
地域高齢者の転倒を予防する歩行能力自己管理プログラムの構築	平松 知子	看護学部	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
介護職の虐待予防を目指したストレス緩和を図るストレッチプログラムの開発	河野 由美子	看護学部	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
職域での快眠音を用いた睡眠支援システムの開発と効果検証	中田 ゆかり	看護学部	¥1,800,000	補委	(独)日本学術振興会
介護保険施設における援助者の負担軽減に向けた新入浴ケア体制の開発と評価	橋本 智江	看護学部	¥1,700,000	補委	(独)日本学術振興会
コンタクトレンズの装用はミドリ波ばく露誘発眼障害を増悪させるか	小島 正美	看護学部	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
アポトーシス細胞におけるクロマチンの細胞表面露出のメカニズム解明	岩淵 邦芳	生化学 I	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
働く世代のがん患者が抱える社会的問題の評価尺度とスクリーニングによる介入法の開発	久村 和穂	腫瘍内科学	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
母胎間シグナルトランスミッターの構造解析	八田 稔久	解剖学 I	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
外来化学療法を受けるがん患者の治療と就労の両立支援モデルの開発	北村 佳子	看護学部	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
内皮細胞オートファジー不全が糖尿病腎線維化において演じる分子機構の解明	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会

RNA結合因子を標的とした神経膠腫予後マーカー開発	中村 有香	生命科学研究領域	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
腸神経堤由来細胞の細胞遊走をガイドする神経-周辺組織間コミュニケーションの探索	河野 美幸	小児外科学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
幼児の喘息疾患管理アドヒアランス向上のための支援モデル開発	土師 しのぶ	看護学部	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
ユビキチン依存的DNA-PK活性化が導く抗がん剤感受性のメカニズム解明	逆井 良	生化学 I	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
生活習慣病を予見する新しい糖化蛋白質の同定、および疾患予防食品成分の探索	逆井 亜紀子	先端医療研究領域	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
安全・安心な分娩管理に向けた助産師の意思決定支援システムの開発	山崎 智里	看護学部	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
生体金属イオンシグナルによる新規サイトカイン産生制御機構の解明	和田 俊樹	免疫学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
ストレス性精神疾患における細胞内ムスカリンM1受容体の役割	益岡 尚由	薬理学	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
前頸部軟部組織持続陰圧負荷による閉塞型睡眠時無呼吸の新しい治療法の開発	斎藤 雅俊	呼吸器内科学	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
胎児大脳皮質発生調節機構における胎盤TLR3の役割の解明	塚田 剛史	解剖学 I	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
統合失調症の非罹患同胞における包括的中間表現型解析	大井 一高	精神神経科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
低エストロゲンがマウス嗅上皮細胞に及ぼす影響に関する研究	山田 健太郎	耳鼻咽喉科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
後発白内障におけるプロテオグリカン・デコリンの関係と機能解析	柴田 伸亮	眼科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
口腔癌の浸潤性増殖における細胞膜活性脂質の役割	加藤 晃一郎	顎口腔外科学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
重症意思表示困難患者のcueの理解による身体ニーズアセスメント尺度の開発	山田 奈津子	看護学部	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
高齢期の脳内炎症を標的とした脳損傷後の神経回路再建へのアプローチ	田中 貴士	解剖学 II	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
類器官とハイスループットスクリーニングシステムを用いたがん浸潤寄与因子の探索	市川 壮彦	病理学 I	¥2,200,000	補委	(独)日本学術振興会
冠動脈狭窄と可溶性グアニル酸シクラーゼヘム鉄の酸化還元状態	田和 正志	薬理学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
高転移性ルイス肺癌における血管内皮細胞を模倣した腫瘍擬似血管形成メカニズムの解明	高辻 英仁	生化学 II	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
血液凝固制御因子ADAMTS13とアンジオテンシンIIによる突然死に関する研究	小林 正宗	法医学	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
CD38抑制によるSirt3活性化を介した糖尿病性腎症の新たな治療法の検討	小倉 慶雄	内分泌・代謝科	¥1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激の有効性と効果予測に関する研究	大久保 裕章	精神神経科学	¥1,700,000	補委	(独)日本学術振興会

MMP9を標的とした翼状片発症機構の解明と予防薬の開発に関する研究	柴田 奈央子	眼科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
ドライアイにおける角膜内在性三叉神経の機能異常の発生メカニズム解明	山下 優香	薬理学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
腸管神経堤由来細胞遊走に対する細胞外マトリックスの役割	安井 良僚	小児外科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病透析患者の「家族と結びつく能力」を育成する患者教育プログラムの開発	岡山 未来	看護学部	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
行動制限最小化に向けた共同意思決定に基づく患者参画型看護モデルの開発	長山 豊	看護学部	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
老年期うつ病者のナラティブから創出する治療的ケアプログラムの開発	田中 浩二	看護学部	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴミエリン合成酵素欠損による急性骨髄性白血病進行の抑制機構の解明	谷口 真	生命科学研究領域	¥2,300,000	補委	(独)日本学術振興会
保存期慢性腎臓病患者へのコンコーダンスを活用した新しい療養指導モデルの考案	新井 里美	看護学部	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
耳介形態異常の親子の苦痛を軽減する組織学的根拠に基づく耳介矯正装具の開発	宮永 葵子	看護学部	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
DNA二本鎖損傷修復経路選択機構の解明とゲノム編集技術への応用	逆井 良	生化学 I	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
血液および尿のメタボローム解析と食習慣と血圧との相互関係に関する疫学研究	中川 秀昭	総合医学研究所 共同利用センター	¥91,000	補委	(独)日本学術振興会
ベトナムのダイオキシンや残留性有機汚染物質の小児ステロイドホルモンへの長期的影響	中川 秀昭	総合医学研究所 共同利用センター	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
日本型「ロボット共生社会の倫理」のトランスディシプリナリーな探求と国際発信	本田 康二郎	一般教育機構 人間科学領域	¥611,000	補委	(独)日本学術振興会
プリベンタブルデス(防ぎ得た死)の評価と対策	和藤 幸弘	救急医学	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
可視化デバイスを用いたエビデンスに基づく輸液管理プログラムの開発と評価	松井 優子	看護学部 基礎看護学	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
アジア太平洋地域における膜性腎症の診断・治療・疫学に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
コホート内症例対照研究とモデル解析でのリスク分析による肺癌CT検診間隔の個別設定	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥195,000	補委	(独)日本学術振興会
機能性一本鎖抗体の創製と終末糖化産物による疾患メカニズムの解明	竹内 正義	総合医学研究所 先端医療研究領域	¥650,000	補委	(独)日本学術振興会
認知症高齢者の転倒予防看護質指標による看護介入プログラムと実践継続システムの開発	平松 知子	看護学部	¥195,000	補委	(独)日本学術振興会
応用倫理学における精神医療倫理と合意形成	本田 康二郎	一般教育機構	¥117,000	補委	(独)日本学術振興会
正常分娩の地域分散型医療連携システム構築に向けた基盤づくり	岩谷 久美子	看護学部	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
女性冷え性の東洋医学的所見と生体指標との関連及び冷え性ケアの効果検証の研究	岩谷 久美子	看護学部	¥39,000	補委	(独)日本学術振興会

女性冷え性の東洋医学的所見と生体指標との関連及び冷え性ケアの効果検証の研究	山崎 智里	看護学部	¥39,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴミエリン/脂質ラフトを標的としたインプラント周囲炎の新たな予防法の開発	谷口 真	総合医学研究所	¥65,000	補委	(独)日本学術振興会
高齢患者の長期的アウトカムと費用対効果をふまえた早期排尿自立支援システムの構築	平松 知子	看護学部	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
看護系大学における新人看護教員を支えるメンタリングガイドブックの開発	池内 里美	看護学部	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
前庭代償の新しい評価法を用いた前庭代償の促進薬の開発:動物モデルを用いた研究	坂田 ひろみ	解剖学 I	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
技術哲学の価値論的転回と実践的応用	本田 康二郎	一般教育機構	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
リアノジン受容体による、新規な神経細胞自発発火パターン調整機構の統合的解明	伊藤 哲史	解剖学 II	¥260,000	補委	(独)日本学術振興会
低悪性度グリオーマのリプログラミング技術を用いたエピゲノム解析	平田 英周	病理学 I	¥65,000	補委	(独)日本学術振興会
パーキンソン病の外科治療における新規手術標的の実験的探索	本間 智	解剖学 II	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
アルツハイマー病モデルマウスにおける発症早期の脳波異常解析	加藤 伸郎	生理学 I	¥455,000	補委	(独)日本学術振興会
味覚BMIの開発に向けた美味しさを認識する脳内味覚地図の解明	本間 智	解剖学 II	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
新規末梢血癌細胞検出法を応用した泌尿器癌転移に関するバイオマーカーの開発	高倉 正博	産科婦人科学	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
症状・バイオマーカー・薬理プロファイルから考える新たなせん妄薬物療法に関する検討	大井 一高	精神神経科学	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴ脂質が骨代謝に及ぼすメカニズムに関する研究	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
新規NF-κB抑制因子による炎症性腸疾患における慢性炎症の制御機構	樋口 雅也	微生物学	¥260,000	補委	(独)日本学術振興会
がん化学療法サバイバーが就労する「働きづらさ」の支障程度を示す枠組の開発	久村 和穂	腫瘍内科学	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	松井 真	神経内科学	¥12,560,000	補委	厚生労働省
非癌、慢性炎症性リンパ節・骨髄異常を示すキャッスルマン病、TAFRO症候群その類縁疾患の診断基準、重症度分類の改正、診断・治療のガイドラインの策定に関する調査研究	正木 康史	血液免疫内科学	¥100,000	補委	厚生労働省
非癌、慢性炎症性リンパ節・骨髄異常を示すキャッスルマン病、TAFRO症候群その類縁疾患の診断基準、重症度分類の改正、診断・治療のガイドラインの策定に関する調査研究	川端 浩	血液免疫内科学	¥100,000	補委	厚生労働省
非癌、慢性炎症性リンパ節・骨髄異常を示すキャッスルマン病、TAFRO症候群その類縁疾患の診断基準、重症度分類の改正、診断・治療のガイドラインの策定に関する調査研究	石垣 靖人	総合医学研究所	¥100,000	補委	厚生労働省

自己免疫疾患に関する調査研究	正木 康史	血液免疫内科学	¥430,000	補委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	正木 康史	血液免疫内科学	¥500,000	補委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究	兼氏 歩	整形外科学	¥100,000	補委	厚生労働省
腎臓病データベースの拡充・連携強化と包括的データベースの構築	横山 仁	腎臓内科学	¥700,000	補委	厚生労働省
難治性腎障害に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	¥200,000	補委	厚生労働省
都道府県がん登録の全国集計データと診療情報等との併用・突合によるがん統計整備及び活用促進の研究	西野 善一	公衆衛生学	¥550,000	補委	厚生労働省
全国がん登録を基盤とした長期記述疫学研究用特定匿名化情報の整備に関する研究	西野 善一	公衆衛生学	¥350,000	補委	厚生労働省
HTLV-1母子感染予防に関するエビデンス創出のための研究	西野 善一	公衆衛生学	¥600,000	補委	厚生労働省
生涯にわたる循環器疾患の個人リスクおよび集団のリスク評価ツールの開発を目的とした大規模コホート統合研究	中川 秀昭	総合医学研究所	¥1,550,000	補委	厚生労働省
社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究:NIPPON DATA80/90/2010	中川 秀昭	総合医学研究所	¥450,000	補委	厚生労働省
地域連携に基づいた医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	¥250,000	補委	厚生労働省
在宅医療患者等における多剤耐性菌の分離率及び分子疫学解析	飯沼 由嗣	臨床感染症学	¥700,000	補委	厚生労働省
統合医療についての患者・国民及び医師の適切な選択に資するような情報発信のあり方に関する研究	元雄 良治	腫瘍内科学	¥6,500,000	補委	(国研)日本医療研究開発機構
脳転移がん細胞の休眠維持・破綻機構の解明と新規治療法の開発	平田 英周	病理学 I	¥13,919,231	補委	(国研)日本医療研究開発機構
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	森本 茂人	高齢医学	¥923,077	補委	(国研)日本医療研究開発機構
新興・再興エンテロウイルス感染症の検査・診断・治療・予防法の開発に向けた研究	姫田 敏樹	微生物学	¥769,231	補委	(国研)日本医療研究開発機構
低線量CTによる肺がん検診の実用化を目指した無作為化比較試験および大規模コホート研究	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥309,000	補委	(国研)日本医療研究開発機構
真菌感染症の病態解明及び検査・治療法の確立に関する研究	望月 隆	皮膚科学	¥461,539	補委	(国研)日本医療研究開発機構
慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究	横山 仁	腎臓内科学	¥76,923	補委	(国研)日本医療研究開発機構
複数の免疫学的重篤副作用に関する遺伝学的要因及び感染症要因の同定と安全対策への応用に関する研究	梶波 康二	循環器内科学	¥384,616	補委	(国研)日本医療研究開発機構
児童・思春期における心の健康発達・成長支援に関する研究	川崎 康弘	精神神経科学	¥384,616	補委	(国研)日本医療研究開発機構

抗Neurofascin155抗体関連中枢・末梢神経障害症候群(CCPD/CIDP)の診療ガイドライン作成のための定量的抗体測定法の開発と基盤エビデンスの構築	松井 真	神経内科学	¥538,462	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	本田 康二郎	一般教育機構	¥400,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
本邦の先天異常発生状況の推移とその影響要因に関する研究	森河 裕子	看護学部	¥153,847	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
ゲノム医療の実装に資する臨床ゲノム情報統合データベースの整備と我が国の継続的なゲノム医療実施体制の構築	新井田 要	総合医学研究所	¥1,384,616	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像(WSI)の収集基盤整備と病理支援システム開発(病理組織デジタルが追う収集に関する研究)	山田 壮亮	臨床病理学	¥3,884,615	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
ICTを活用したDiabetic Kidney Diseaseの成因分類と糖尿病腎症重症化抑制法の構築	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,923,077	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
中性脂肪蓄積心筋血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発	山田 壮亮	臨床病理学	¥384,616	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
がん細胞休眠機構の解明と新規治療法の開発(原文:Elucidation of the mechanisms underlying cancer cell dormancy toward establishing effective treatment strategies)	平田 英周	病理学 I	¥4,500,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
生活習慣病の発症・進展における新規ターゲットとしてのToxic AGEs(TAGE)の関与とその阻止	竹内 正義	先端医療研究領域	¥6,868,395	補 委	文部科学省
カドミウム汚染地域(神通川流域、梯川流域)住民の追跡研究ーカドミウム暴露に伴う生命予後と健康影響ー	中川 秀昭	共同利用センター	¥1,739,131	補 委	日本エヌ・ユー・エス(環境省)
超高周波の電波ばく露による眼部等の人体への影響に関する定量的調査	佐々木 洋	環境原性視覚病態研究部門	¥11,661,000	補 委	総務省
からだを透かして見てみようー透明人間できるかな?ー2017	八田 稔久	解剖学 I	¥304,000	補 委	(独)日本学術振興会
長寿のメニューってできるんけ? 2017~食品の「活性酸素」を消す力を測定しよう~	島田 ひろき	解剖学 I	¥304,000	補 委	(独)日本学術振興会
夏に現れる嫌な虫、蚊ってどんな奴?	村上学	医動物学	¥304,000	補 委	(独)日本学術振興会
アルツハイマー病治療・予防のための可動式光刺激装置	加藤 伸郎	生理学 I	¥1,500,000	補 委	名古屋大学 (国研)日本医療研究開発機構
HGF/MET axisの本質的制御による革新的スキルス胃癌標的治療法の開発	安本 和生	腫瘍内科学	¥1,000,000	補 委	名古屋大学 (国研)日本医療研究開発機構
フッ素添加DLC(ダイヤモンドライクカーボン)を用いた骨内抗菌インプラントの開発	川口 真史	整形外科学	¥2,500,000	補 委	名古屋大学 (国研)日本医療研究開発機構

第16回日韓糖尿病性腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,152,000	補委	(独)日本学術振興会
MDCKシスト回転運動メカニズムの解明と癌転移への寄与	市川 壮彦	病理学 I	¥500,000	補委	日本私立学校新興・共済事業団
Regulation and Function of Prdx6 in eye lens during Aging & Oxidative Stress	久保 江理	眼科学	¥898,771	補委	ネブラスカ大学(NIH)
研究開発課題5:機能性細胞を用いた生体適合性担体の探索および製造システムに関する研究	下平 滋隆	再生医療学	¥5,273,077	補委	(国研)科学技術振興機構
総合失調症とその第1度近親者において身体活動量がメンタルヘルスに及ぼす影響	大井 一高	精神神経科学	¥500,000	補委	(公財)右本記念デサントスポーツ科学振興財団
喫煙が血管系における可溶性グアニル酸シクラーゼ酸化還元状態に及ぼす影響	田和 正志	薬理学	¥500,000	補委	(公財)喫煙科学研究財団
アセチルコリントランスポーターおよび細胞内アセチルコリン受容体を介するアルツハイマー病治療の戦略	村松 郁延	薬理学	¥5,000,000	補委	(公財)喫煙科学研究財団
喫煙行動と統合失調症における遺伝的共通性の解明	大井 一高	精神神経科学	¥500,000	補委	(公財)喫煙科学研究財団
BMIによる自然な言語音の脳内再現のための基盤研究	伊藤 哲史	解剖学 II	¥1,200,000	補委	(公財)高橋産業経済研究財団
前向き腎移植コホートにおける長期移植腎の糸球体および間質障害に関する機能分子解析	横山 仁	腎臓内科学	¥500,000	補委	ノバルティスファーマ
健康長寿に繋がるアミノ酸バランスの食料科学的な意義解明と新たな糖尿病および糖尿病合併症に対する食事療法の開発	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥500,000	補委	ノバルティスファーマ
気管支喘息の気道炎症におけるリポリン脂質と同アシル基転移酵素の役割の解明	長内 和弘	呼吸器内科学	¥500,000	補委	ノバルティスファーマ
小児期多発性神経内分泌腫瘍1型(MEN1)の早期診断方法の確立	伊藤 順庸	小児科学	¥500,000	補委	ノバルティスファーマ
S-アデノシルメチオニン(SAM)代謝の変異の糖尿病腎症の病態に果たす役割の解明	北田 宗弘	内分泌内科学	¥500,000	補委	ノバルティスファーマ
COPD患者における遺伝子変異と気腫多様性による気管支拡張剤の治療効果に関する検討	水野 史郎	呼吸器内科学	¥1,000,000	補委	ノバルティスファーマ
糖尿病に特徴的な水晶体混濁病型の解明	佐々木 洋	眼科学	¥500,000	補委	アルコンファーマ
WOCN不在施設におけるストーマスキンケア遠隔看護支援システムの効果検証	中村 徳子	看護部	¥500,000	補委	日本創傷・オストミー・失禁管理学会
精神障害発症の脆弱性因子とされる統合ストレス応答機構の解明	平松 伸彦	生命科学研究領域	¥500,000	補委	小林孫兵衛記念医学振興財団
肺がん術後再発ゼロへの挑戦:予後の改善にむけて	浦本 秀隆	呼吸器外科学	¥1,000,000	補委	北國がん研究振興財団
未分化多能性幹細胞とがん幹細胞に共通する内在性レトロウイルスの発現制御機構	大塚 哲	生命科学研究領域	¥1,000,000	補委	北國がん研究振興財団
北陸がんのリハビリテーション研究会	影近 謙治	リハビリテーション医学	¥300,000	補委	北國がん研究振興財団
単核貪食細胞の包括的な分化制御機構の解明	小内 伸幸	免疫学	¥30,000,000	補委	武田科学振興財団

総合失調症非罹患親近者における包括的中間表現型解析-Imaging Genetics-	大井 一高	精神神経科学	¥2,000,000	補委	武田科学振興財団
小胞体ストレス応答機能の悪玉的性質から迫る炎症性腸疾患の発症機構	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	¥2,000,000	補委	ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社
高血圧性肥大心における細胞内不良タンパク除去システムの挙動	梶波 康二	循環器内科学	¥2,000,000	補委	ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社
血液障害モデルによる内膜肥厚/狭窄に対する、抗酸化酵素ペルオキシレドキシシン(PROX)4の予防メカニズム	山田 壮亮	臨床病理学	¥1,000,000	補委	(公財)MSD生命科学財団
分娩期における熟練助産師の「直観」に関する研究	山崎 智里	看護学部	¥300,000	補委	日本私立看護系大学協会
疲労に繋がるストレスの軽減に対するハチミツ成分の有効性調査	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	¥1,000,000	補委	山田養蜂場
小胞体ストレス応答およびオートファジー機能から迫る炎症性腸疾患の発症機構	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	¥3,000,000	補委	内藤記念科学財団
脳転移がん細胞の休眠維持・破綻機構の解明	平田 英周	病理学 I	¥2,000,000	補委	アステラス病態代謝研究会
過疎地域における高齢者の在宅生活を支える新たな生活期リハビリテーションプログラムの開発～石川県鳳珠群穴水町をモデルとして～	田邊 望	リハビリテーション医学	¥345,000	補委	(公財)橋勝会
ミトコンドリア異常を捉える生体イメージング技術の開発	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	¥1,000,000	補委	(公財)光科学技術研究振興財団
ヒト単核貪食前駆細胞の同定と感染時の分化機構の解明	小内 伸幸	免疫学	¥5,000,000	補委	(公財)上原記念生命科学財団
ミトコンドリア異常を捉える生体イメージング技術の開発	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	¥3,000,000	補委	(公財)中谷医工計測技術振興財団
末梢性グルタミン酸受容体の機能変化に注目した炎症性疼痛増悪メカニズムの解明と治療戦略	益岡 尚由	薬理学	¥1,500,000	補委	(公財)中富健康科学振興財団
核磁気共鳴画像法(MRI)による肺癌・悪性胸膜中皮腫の診断と治療効果判定、およびその分子生物学的病態の解明	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥700,000	補委	(公財)磁気健康科学研究振興財団
認知症患者におけるBPSD発現と介護負担に関する研究	記村 康平	精神神経科学	¥500,000	補委	(公益信託)松原三郎記念精神医学育成基金

計 225件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Niida, Yo;Mitani,	遺伝子医療センター	A Say-Barber- Biesecker-Young-	CONGENITAL ANOMALIES. 201705; 57:	Case report
2	Niida, Yo;Yokoi,	遺伝子医療センター	Reply to: Uniparental disomy of chromosome	BRAIN & DEVELOPMENT. 201702; 39: 184-185	Others
3	Muneko.Nishijo	健康管理センター	Causes of death in patients with Itai-itai	BMJ Open. 201707; 7: e015694(オンライン)	Original Article
4	Muneko.Nishijo	健康管理センター	Gender-Specific Impact of Cadmium Exposure	International Journal of Environmental Research and	Original Article
5	M.Sakurai, K.Yoshita,	健康管理センター	Skipping breakfast and 5-year changes in body	Obesity Science & Practice. 2017; 3: 162-170	Original Article
6	Keisuke Irie, Hirokatsu	リハビリテーションセンター	Validity and responsiveness of the	Hand Therapy. 201706; 30: 1-6	Original Article
7	Norihiro Mita, Hiroshi Sasaki,	医療技術部	Multiple comparisons in two-factor testing of	Communications in statistics- simulation and computatio.	Original Article
8	Shinichi.Kinami	一般・消化器外科学	Laparoscopic sentinel node navigation surgery	Translational Gastroenterology and	Review
9	Toshio.Ohnishi	一般・消化器外科学	Sphingomyelin synthase 2 deficiency inhibits the	The FASEB Journal. 201712; 31: 3816-3830	Original Article
10	Y.Nakano, M.Noguchi,	一般・消化器外科学	The roles of 18F-FDG- PET/CT and US-	Breast cancer. 201701; 24: 121-127	Original Article
11	Noboru.Demur a,	顎口腔外科学	A Case of Orthodontic Treatment for a Patient	Journal of Dental and Oral Health. 201709; 3(オンライ	Case report
12	Toshikuni, Nobuyuki;Mats	肝胆膵内科学	An image fusion system for estimating the	RADIOLOGY AND ONCOLOGY. 201709; 51:	Original Article
13	Toshikuni, Nobuyuki;Tsuc	肝胆膵内科学	Associations of Fatty Liver Disease with	GASTROENTEROLOGY RESEARCH AND	Original Article
14	Toshikuni, Nobuyuki	肝胆膵内科学	Therapy with Direct- Acting Antiviral Agents	GUT AND LIVER. 201705; 11: 335-348	Original Article
15	E.Kubo, S.Shibata,	眼科学	FGF2 antagonizes aberrant TGF $\beta$	Journal of Cellular and Molecular Medicine. 2017;	Original Article
16	Yasufumi.Masa ki,	血液免疫内科学	A multicenter phase II prospective clinical trial	Modern Rheumatology. 201705; 27: 849-854	Original Article
17	Hiroshi.Kawab ata,	血液免疫内科学	Validation of the revised international	International journal of hematology. 201709; 106:	Original Article
18	Nozomu.Moton o,	呼吸器外科学	Dividing the procedures into lobectomy and	Journal of Lung Cancer Diagnosis & Treatment.	Case report
19	Usuda Katsuo;Funaza	呼吸器外科学	Economic Benefits and Diagnostic Quality of	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery.	Original Article
20	Motono Nozomu;Matsu	呼吸器外科学	Prognostic significance of histologic subtype in	Medical oncology. 201704; 34: 2-6(オンライン)	Original Article
21	Usuda, Katsuo;Maeda,	呼吸器外科学	Pulmonary Function After Lobectomy:	INDIAN JOURNAL OF SURGERY. 201712; 79: 504-	Original Article
22	Machida Yuichiro;Moto	呼吸器外科学	Successful endovascular coil embolization in an	International journal of surgery case reports. 2017;	Case report
23	Masafumi.Nojiri , Shiro.Mizuno,	呼吸器内科学	ADRB2 gene polymorphism and	Pulmonary Pharmacology & Therapeutics. 201705; 48:	Original Article
24	Kazuhiro.Osan ai,	呼吸器内科学	Exogenous gene transfer of Rab38 small	Respiratory Research. 201704; 18: 70(オンライン)	Original Article
25	Shiro.Mizuno, Takeshi.Ishizak	呼吸器内科学	p53 Signaling Pathway Polymorphisms	CHEST. 201707; 152#1: 58- 69	Original Article
26	Morita Takuro;Okuno	高齢医学	Glycemic control and disability-free survival	Geriatrics & gerontology international. 201702; 17:	Original Article
27	Okuno Tazuo;Watana	高齢医学	Major electrocardiographic	Geriatrics & gerontology international. 2017; 17:	Original Article
28	T.Shibata J.Sakamoto	産科婦人科学	Myeloperoxidase in blood neutrophils	Int J Lab Hematol. 201704; 39: 169-174	Original Article
29	Shiga Hideaki;Taki	耳鼻咽喉科学	Prognostic value of olfactory nerve damage	Scientific reports. 2017; 7: (オンライン)	Original Article
30	Y.Motoo,T Hakamatsuka,	腫瘍内科学	Standards of reporting Kampo products	Journal of Integrative Medicine. 201704; 15: 182-	Original Article
31	Takamura, Taka-	循環器内科学	Circulating malondialdehyde-	ATHEROSCLEROSIS. 201708; 263: 192-197	Original Article
32	M.Watanabe, Y.Kawai,	循環器内科学	Diurnal glycemic fluctuation is associated	Journal of cardiology. 201704; 69: 625-631	Original Article

33	Masatsune.Ito	小児科学	A novel MEN1 mutation in a Japanese	Clinical pediatric endocrinology. 201701; 26:	Original Article
34	Chisato.Akita, Yutaka.Saikawa	小児科学	Gastric Gyri – Pediatric Menetrier’s Disease	The New England Journal of Medicine. 201702; 376: 774–	Case report
35	Y.Yasui,M.Kohno,S.Nishida,	小児外科	Cartilage-hair hypoplasia associated	CONGENITAL ANOMALIES. 201701; 57:	Case report
36	Y.Yasui,S.Nishida,T.Shironom	小児外科	Surgical approach for fecal incontinence with	obesity Science & Practice. 2017; 3: 162–170	Original Article
37	Arisawa, Tomiyasu;Naka	消化器内科学	Genetic polymorphisms of MAFK, encoding a	WORLD JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY.	Review
38	K.Kawaura, T.Ito,	消化器内視鏡学	Selection of Methods for Percutaneous	CLINICAL INVESTIGATION. 201709;	Original Article
39	Megumi.Nakanishi,	神経内科学	A case of Mumps Virus Reinfection Manifesting	Journal of Neuroinfectious Diseases. 2017; 8: 2(オンライン)	Case report
40	Makoto.Matsui	神経内科学	How to use the new 2017 Japanese	Clinical and Experimental Neuroimmunology. 2017; 8:	Review
41	Okushi Y, Okino K,	腎臓内科学	Circulating and renal expression of HLA-G	Clinical and Experimental Nephrology. 201703; 21:	Original Article
42	K.Okino, Y.Okushi,	腎臓内科学	The long-term outcomes of hepatitis C	Clinical and Experimental Nephrology. 201703; 21:	Original Article
43	Toru.Ichiseki, Shusuke.Ueda,	整形外科	Involvement of necroptosis, a newly	International journal of medical sciences. 201701;	Original Article
44	Toru.Ichiseki, Shusuke.Ueda,	整形外科	Massive tear of an ossified supraspinatus	International journal of clinical and experimental	Case report
45	Shusuke.Ueda, Miyako.Shimas	整形外科	Prevention of glucocorticoid-	BMC musculoskeletal disorders. 201711; 18: 480	Original Article
46	E.Takahashi, A.Kaneui,	整形外科	The influence of cement thickness on stem	Bone & joint research. 201705; 6: 351–357(オンライン)	Original Article
47	Oh, Kazutaka;Sumi	精神神経科学	A Brief Assessment of intelligence Decline in	FRONTIERS IN PSYCHIATRY. 201712; 8:	Original Article
48	Oh Kazutaka;Shim	精神神経科学	Cognitive clustering in schizophrenia patients,	NeuroImage. Clinical. 2017; 16: 248–256	Original Article
49	T.Yasuyama, K.Ohi,	精神神経科学	Differences in social functioning among	Psychiatry research. 201701; 249: 30–34	Original Article
50	K.Ohi, T.Shimada,	精神神経科学	Impact of Familial Loading on Prefrontal	Scientific Reports. 201704; 7: 44268(オンライン)	Original Article
51	Y.Ryo, M.Takeuchi,	精神神経科学	Olfactory function in neuropsychiatric	PSYCHIATRY RESEARCH. 201703; 252: 175–179	Original Article
52	Oh Kazutaka;Kuwa	精神神経科学	Response to benzodiazepines and	Medicine. 201704; 96: e6566(オンライン)	Case report
53	Oh, Kazutaka;Shim	精神神経科学	Spatial and temporal expression patterns of	PROGRESS IN NEURO-PSYCHOPHARMACOLOGY	Original Article
54	K.Ohi, T.Shimada,	精神神経科学	Variability of 128 schizophrania-	Translational Psychiatry. 201701; 7: e988(オンライン)	Original Article
55	Munehiro.Kitادا, Shin-	糖尿病・内分泌内科学	Anagliptin ameliorates albuminuria and urinary	BMJ open diabetes research & care. 201707; 5(オンライン)	Original Article
56	Munehiro.Kitادا,	糖尿病・内分泌内科学	Cyclic and intermittent very low-protein diet	NEPHROLOGY. 201712; 22: 1030–1034(オンライン)	Original Article
57	Megumi.Kanasaki, Swayam	糖尿病・内分泌内科学	Deficiency in catechol-o-methyltransferase is	SCIENTIFIC REPORTS. 201708; 7: 7927(オンライン)	Original Article
58	Yuta.Takagaki, Daisuke.Koya,	糖尿病・内分泌内科学	Dipeptidyl peptidase-4 inhibition and	CURRENT OPINION IN NEPHROLOGY AND	Review
59	Daisuke.Koya	糖尿病・内分泌内科学	Impact of empagliflozin on diabetic kidney	JOURNAL OF DIABETES INVESTIGATION. 201709;	Letter
60	Munehiro.Kitادا,	糖尿病・内分泌内科学	Regulating Autophagy as a Therapeutic Target	Current diabetes reports. 201707; 17: 53(オンライン)	Review
61	Munehiro.Kitادا,	糖尿病・内分泌内科学	The Effect of Piceatannol from	NUTRIENTS. 201710; 9: 1142(オンライン)	Original Article
62	Yuzo. Shimode,	頭頸部外科学	Examination of Selective Low-pressure Fine	YONAGO ACTA MEDICA. 201709; 60: 209–212	Letter
63	Seiji Watanabe, Kazushi	皮膚科学	Case of mycotic cyst caused by	The Journal of Dermatology. 2017; 44: e296–e297(オンライン)	Case report
64	S.Watanabe, K.Anzawa,	皮膚科学	High prevalence of superficial white	Mycoses. 2017; 60: 634–637(オンライン)	Original Article
65	J.Watanabe, K.Anzawa,	皮膚科学	Molecular epidemiology of Japanese isolates of	Japanese Journal of Infectious Diseases. 2017; 70: 544–548	Original Article
66	T.Ushigami, K.Anzawa,	皮膚科学	Molecular typing using polymorphisms of the	The Journal of Dermatology. 2017; 44: 36–42	Original Article
67	J.Hatta, T.Mochizuki	皮膚科学	Successful treatment of plantar warts with	The Journal of Dermatology. 2017; 44: e134–e135(オンライン)	Letter
68	T. Mochizuki, K. Takeda, K.	皮膚科学	Molecular markers useful for intraspecies	Mycopathologia. 2017; 182: 57–65	Review
69	Tsuchiya Naoko;Doai	放射線医学	Non-small cell lung cancer: Whole-lesion	PloS one. 2017; 12: e0172433(オンライン)	Original Article
70	Matoba, Munetaka;Tuij,	放射線医学	The role of changes in maximum standardized	BRITISH JOURNAL OF RADIOLOGY. 201703; 90;	Original Article

71	Daisuke Usuda,	臨床感染症学	A Case of Diffuse Large B-Cell Lymphoma	Case Reports in Oncology. 2017; 10: 1013-1022 (オンライン)	Case report
72	Daisuke Usuda, Shinya	臨床感染症学	Gastroenteritis in Japanese Females	Journal Clinical Case Reports. 2017; 7: 10001021	Case report
73	S.Yamada, H.Kawaguchi,	臨床病理学	Cholic Acid Enhances Visceral Adiposity,	J Atheroscler Thromb. 2017; 24: 1150-1166 (オンライン)	Original Article
74	S.Yamada, M.Kirishima,	臨床病理学	Epithelioid schwannoma of the skin displaying	Diagn Pathol. 2017; 12: 11 (オンライン)	Case report

計74件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 臨床における倫理方針、職業倫理要綱 ・ 患者の権利 ・ 臨床倫理の研修 ・ 臨床倫理問題 ・ 高難度新規医療技術の導入 ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年6回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 対象＝産学官連携活動に従事する教職員 ・ 判断基準＝個人COI、組織COI、責務相反COIを定義 ・ 委員会の設置、運営 ・ 手続き等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年51回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 14 回
・ 治験・臨床研究の倫理に関する教育研修会『臨床研究の規制と研究倫理』（外部講師）1回 ・ 臨床研究セミナーを13回（中部円環コンソーシアムによるライブ配信） 内容は『臨床研究の歴史と被験者保護』、『臨床研究における研究不正と行動規範』、『臨床研究実施で考慮すべき倫理関連事項』、『医薬品・医療機器開発』、『臨床研究に関する法規制と指針』、『臨床試験の計画と準備』、『被験者の募集、組み込みと参加継続』、『臨床研究のための統計解析法』、『安全性入門』、『製薬企業における医薬品開発と創薬基礎研究』、『知的財産』、『臨床研究法施行後の品質マネジメントシステム』等である。 研究者はGCP及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等、各研究倫理指針を遵守しなけれ	

ばならない。そのためには「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では研究者は研究に先立ち、研究実施に必要な研究倫理の講習・研修を適宜かつ継続的に受けなければならないとされている。そこで当センターでは全教職員を対象として上記講習会を開催した。

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院の後期臨床研修では、総合診療医（家庭医）、専門医など個々が目指すキャリアに柔軟に対応するプログラムを準備している。医師として本院で働きながら大学院への進学も可能であり、海外留学についても積極的に支援を行っている。2年間の初期臨床研修で修得した知識と技術を基礎に、各診療科に関連した学会の認定医・専門医・指導医の資格を取得した教授、准教授、講師などの強力な指導体制のもと、さらに高度な医療を身につけることを目指している。

具体的には、診療科毎に独自の研修プログラムを組んでおり、内科系・外科系で研修期間は異なる。各診療科における研修内容及び到達目標は、認定医・専門医・指導医の取得である。本院で認定医・専門医・指導医を取得できるほか、高い専門性からジェネラルフィジシャン（総合診療医）の知識・技能の習得まで、あらゆる将来の選択が可能である。後期臨床研修においてもローテーション枠を設けており、また、専門科間、職種間のカンファレンスが日常的に行われている。

各診療科における①後期臨床研修プログラムの目的、②後期臨床研修プログラム修了後のコース、③時間割、研修内容と到達目標、④取得できる認定医、専門医（必要な期間）資格とその取得にかかわる概要、⑤週間スケジュール等の詳細については、本院臨床研修センターが作成する「金沢医科大学病院臨床研修プログラム」（職臨床研修医・後期臨床研修医）の冊子に示している。

なお、大学院への進学については、平成24年度から初期臨床研修医2年次からの大学院進学が可能となり、後期臨床研修医採用の魅力となっている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	123 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
梶波 康二	循環器内科	診療科長	34年	
土谷 武嗣	心血管カテーテル治療科	診療科長	29年	
坂本 滋	心臓血管外科	診療科長	39年	
四方 裕夫	末梢血管外科	診療科長	36年	
中村 常之	小児循環器内科	診療科長	23年	
北山 道彦	小児心臓血管外科	事務取扱	35年	
水野 史朗	呼吸器内科	診療科長	23年	
浦本 秀隆	呼吸器外科	診療科長	23年	
有沢 富康	消化器内科	診療科長	34年	
土島 睦	肝胆膵内科	診療科長	32年	
伊藤 透	消化器内視鏡科	診療科長	34年	
小坂 健夫	一般・消化器外科	診療科長	38年	
野口 昌邦	乳腺・内分泌外科	診療科長	41年	
横山 仁	腎臓内科	診療科長	37年	
宮澤 克人	泌尿器科	診療科長	34年	
古家 大祐	内分泌・代謝科	診療科長	35年	
正木 康史	血液・リウマチ膠原病科	診療科長	28年	
松井 真	神経内科	診療科長	37年	
飯塚 秀明	脳神経外科	診療科長	38年	

大黒 正志	高齢医学科	診療科長	22年
元雄 良治	腫瘍内科	診療科長	38年
犀川 太	小児科	診療科長	30年
河野 美幸	小児外科	診療科長	36年
川崎 康弘	神経科精神科	診療科長	33年
川崎 康弘	心身医学科	診療科長	33年
的場 宗孝	放射線科	診療科長	24年
的場 宗孝	放射線治療科	診療科長	24年
川原 範夫	整形外科	診療科長	35年
島田 賢一	形成外科	診療科長	24年
佐々木 洋	眼科	診療科長	31年
三輪 高喜	耳鼻咽喉科	診療科長	35年
辻 裕之	頭頸部・甲状腺外科	診療科長	37年
望月 隆	皮膚科	診療科長	36年
笹川 寿之	産科婦人科	診療科長	35年
土田 英昭	麻酔科	診療科長	39年
影近 謙治	リハビリテーション医学科	診療科長	31年
和藤 幸弘	救命救急科	診療科長	35年
山田 壮亮	病理診断科	診療科長	17年
飯沼 由嗣	感染症科	診療科長	30年
瀬上 夏樹	歯科口腔科	診療科長	39年
浅地 孝能	健康管理センター	センター長	34年
小林 淳二	総合診療センター	センター長	31年
森本 茂人	認知症センター	センター長	40年
野口 昌邦	乳腺センター	センター長	41年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 「医療従事者に対する緩和ケア研修会」</li><li>・研修の期間・実施回数 年1回（2018年9月30日）</li><li>・研修の参加人数 医師36名、看護師2名、薬剤師1名</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 北山道彦
管理担当者氏名	医事課診療情報担当課長 山野清一、情報管理課長 中村光宏、 病院管理(管理)担当課長 西島大輔、病院管理(人事担当)課長 原章文 医療安全課長 岡山均

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	項 規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号(7桁)を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。 。診療録の利用に当たり、管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸出することは「診療録貸出規定」にて禁止事項となっています。	
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	三 規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課(人事担当)	
		高度の医療の提供の実績		医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績		医事課
		高度の医療の研修の実績		臨調試験治験センター
		閲覧実績		病院管理課(管理担当)
		紹介患者に対する医療提供の実績		地域医療連携事務課
	一 規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課(管理担当)、薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全課		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全課		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全課		
			本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部、医療安全課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部	

本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全課
		監査委員会の設置状況	医療安全課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全課
		職員研修の実施状況	医療安全課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全課
管理者が有する権限に関する状況	整備中		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	整備中		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	整備中		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	医療情報担当副院長 横山 仁	
閲覧担当者氏名	医事課診療情報担当副部長 山野清一 (診療記録)	
閲覧の求めに応じる場所	医事課診療情報担当 (病歴) 事務室内	
閲覧の手続の概要 電子カルテシステム稼働 (平成 12 年) 以前の紙の診療録の貸出しについては、貸出日の前日までに貸出依頼票を医事課診療情報担当事務に提出し、医療情報部長の許可を受けて行ないます。貸出期間は 2 日以内ですが、死亡患者については 7 日以内となっています。 当該患者の診療のため診療録が必要となった場合を除き診療録の閲覧場所は医事課診療情報担当 (病歴) 事務室内で行ないます。 診療録の利用に当たり管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸しすることは「診療録貸出規程」にて禁止事項となっております。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	20 件
閲覧者別	医 師	延 20 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<p>① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況</p>	<p>有・無</p>
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの3部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。</p>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p>	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 24回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>* 医療安全対策小委員会：年12回／月1回開催（第3水曜日）</p> <p>医療安全対策小委員会は医療安全管理室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科・麻酔科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。</p> <p>* 医療安全対策委員会：年12回／月1回開催（第4火曜日）</p> <p>医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門セーフティマネージャー（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果及び改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故に関してそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回2～3グループの代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・セーフティマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。</p> <p>委員会の議事録及び資料は、各委員及び全セーフティマネージャーに配付し所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：</li> </ul> <p>           ≪全体研修≫：3回            1) インシデント・アクシデントの報告ルール、医薬品の安全管理、院内医療事故調査制度            2) 当院における抗がん剤曝露調査の結果報告、当院における抗がん剤曝露対策の取り決め            3) TeamSTEPPS概論         </p> <p>           ≪新規採用者研修≫：3回            1) 新人看護師オリエンテーション            2) 初期臨床研修医オリエンテーション            3) KYT分析（危険予知トレーニング）         </p> <p>           ≪中途採用者研修≫：1回            1) 中途採用者研修         </p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <p>           医療安全管理者が、医療事故報告書とインシデントレポートの報告内容を確認するため、現場状況調査を行い事象の分析を通して問題点を把握する。            また、各部署より医療安全に関する業務改善計画を年3回（①初期計画（5月）、②中間報告（10月）、③最終評価（3月））に提出してもらい、その都度評価と改善策の検討を行っている。            さらに、院内ラウンドとセーフティマネージャーカンファレンスを実施し、各部署から提出された業務改善計画の実施状況の確認を行っている。         </p>	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項</li> <li>3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染事例への対応に関する事項</li> <li>2. サベ インスデ ータに基づく、院内感染症発生状況の把握と対策に関する事項</li> <li>3. 抗菌薬適正使用に関する事項</li> <li>4. 院内感染対策に係る緊急事態（重大な感染事例発生等）への対応に関する事項</li> <li>5. 院内感染防止対策に係る教育啓発に関する事項</li> <li>6. 感染対策マニュアルの改訂に関する事項</li> <li>7. その他、院内感染防止対策に関する協議検討報告事項</li> </ol> <div data-bbox="1082 898 1441 1016" style="border: 1px solid black; padding: 5px; float: right; margin-top: 10px;"> <p>【委員会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月1回年間12回の定例開催</li> <li>・ 委員数 28名</li> <li>・ 平均出席率 83%</li> </ul> </div>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 90 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>【全職員対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「当院における院内感染対策の課題と対応」 開催日時：平成29年5月25日（木） 講師：飯沼由嗣 感染制御室室長 / 野田洋子 感染制御室課長 / 坂本麻衣 看護部感染管理認定看護師</li> <li>2) 「耐性期対策と抗菌薬の適正使用」 開催日時：平成30年1月26日（金） 講師：森澤雄司 自治医科大学附属病院 感染制御部 部長 感染症科 准教授</li> </ol> <p>【新採用者対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全員「新入職員オリエンテーション」 開催日：平成29年4月4日</li> <li>2) コメディカル対象 開催日：平成29年4月4日</li> <li>3) 研修医対象 開催日：平成29年4月10日、11日</li> <li>4) 新人看護職員研修 開催日：平成29年4月6日、11日、12日</li> </ol> <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 婦局職員及び中途採用者対象 開催日：平成29年10月2日</li> <li>2) 清掃委託業者「院内環境清掃のポイント」 開催日：平成29年10月20日</li> <li>3) 標準予防策の遵守に関する全職員対象講習会（Standard Precaution Training: SPT） 標準予防策に関する基本教育講習を全職員（業務委託業者を含む）対象に、拡大必修化し、標準予防策の遵守率向上および金沢医科大学病院における医療の安全、質の向上を目指すため、部門毎に20～30分間の手指衛生、防護具の着脱についての実習形式の教育講習を実施（H29.8～H30.5にかけて）</li> </ol> <p>※その他、看護部依頼の研修、各部署向け研修等は必要時、その都度行っている</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症事例の情報の感染制御室への集約と、迅速な現場への指示および実施状況の確認。</li> <li>2. 全病棟対象のICTラウンドの実施による感染対策遵守状況の確認と改善のための助言。</li> <li>3. 感染症サベ インスの導入と関係部署への定期的なフィードバック。</li> <li>4. 耐性菌サベ インスの実施によるアウトブレイクの早期発見、感染症患者に対する感染対策の指示</li> </ol>	

5. すべての職業感染事例に対する対応と予防対策への助言、針刺し防止器材の積極的な導入と評価
6. 病院職員を対象とした、ワクチン接種、抗体価測定
7. 月例の感染対策上問題となった事例の報告と全部署への周知徹底
8. 全職員対象の感染対策講演会の他、職種別、部署別など様々な教育啓発活動の実践。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医薬品の安全管理</li> <li>2) 中途採用者、復職者のための医薬品の安全管理</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品の採用・購入に関する事項</li> <li>・ 医薬品の管理に関する事項</li> <li>・ 患者の持参薬歴情報の収集方法</li> <li>・ 処方箋の記載方法</li> <li>・ 調剤方法及び監査方法</li> <li>・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li> <li>・ 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項</li> <li>・ 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チニダゾール錠のアメーバー性肝膿瘍の治療に使用（適応外）</li> <li>・ 50%ブドウ糖液の肺切除後遅発性気腫、手術困難な気胸への使用（適応外）</li> <li>・ ビジクリア錠の透析患者への大腸内視鏡検査前処置における減量使用（禁忌）</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PMDAメディナビの登録、インターネット（メーカー・卸）からの情報収集、MR・MSからの紙ベースでの情報収集、医薬品情報の院内周知と周知状況の確認</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 63 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>機器研修はH19.3.30医政局通知（有効性、安全性、使用方法、保守、不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回／年）に従っている。人工呼吸器等の主要ME機器については医療安全部、看護部、ME部（当院の機器管理部門）等が協力、連携し機器研修を実施している。（平成29年度の機器毎の研修等の実施回数 63回、参加延べ人数約818名）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （有 無）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示（点検内容、頻度）に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えてメーカー推奨の使用時間毎にメーカー定期点検を実施している</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有 無）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：臨床事例はなし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>未承認等の医療機器を使用する際は、機器メーカー、臨床工学技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧し、必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を行っている。</p> <p>全体に関わる事案については医療安全委員会議（各部門リスクマネージャ全員出席）で報告、説明、注意喚起等を実施している。また機器管理部門（当院ではME部）では定期的に部内で機器保守管理検討会を実施し医療機器の効果的な保守点検管理に努めている。ME機器はME部で中央管理とし、機種を統一している</p>	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>当院の医療安全管理責任者は、医療安全を担当する副院長が就任しており、医療安全部長を兼務している。医療安全部には、医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者、兼任セーフティマネージャー等が所属しており、医療安全管理責任者が中心となり、週1回程度カンファレンスを実施し、院内における医療安全対策に対する取組の評価を行っている。また、医療安全対策委員会、医療問題検討委員会の副委員長を兼任しており、医療事故防止や医療安全改善事項等について審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>① 医薬品の安全使用に関わる手順書の作成・改訂</p> <p>② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修会の実施</p> <p>③ 医薬品の業務手順書に基づく業務実施内容の確認と改善策の実施</p> <p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集</p> <p>⑤ その他の医薬品の安全確保の目的と改善策の実施</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>① 医薬品安全使用のための業務に資する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認</p> <p>② 未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築、運営</p> <p>③ 未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討状況の確認、必要な指導、結果の共有</p> <p>④ 上記措置を適切に実施するための担当者の定め</p> <p>・ 担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</li> <li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：医療行為を行なうに当たり患者等に対して説明書による説明と同意を取得すること定めており、患者氏名、患者番号、説明を行った日付、診断名、病状の説明、診療行為の目的と内容、行為に伴う副作用・危険性及び予後、患者の確認及び同意の記載、同意した日付、患者本人並びに代理人の署名、同席した医療者名等について、診療情報管理士が記載漏れや記載の誤りを確認して該当の診療科及び部署に注意を促しています。</li> </ul>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>診療録の記載内容に関する質的監査は、入院診療計画書、入院経過要約、毎日のプログレス記載、フォローアップの記載、治療内容の記載、周術期記録、手術及び麻酔、輸血に関する説明及び同意書等の有無などについて診療情報管理士が評価（量的監査）した後、主治医以外の医師により傷病の特徴、傷病の問題点、一般的な傷病との違い、今後の治療方針並びに考察、経過に関する評価及び問題点について診療内容との整合性や適正に記載されているかなどを評価（質的監査）します。監査の結果は、診療科にフィードバックして注意を促しています。</li> </ul> </li> </ul>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員：専従（ 10 ）名、専任（ ）名、兼任（ 7 ）名 <ul style="list-style-type: none"> <li>うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 3 ）名</li> <li>うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名</li> <li>うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名</li> </ul> </li> <li>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</li> <li>・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各部門の医療安全対策の実施状況の評価を行い、業務改善計画書を作成する。計画書に基づく実施状況及び評価結果を記録し保管を行う。</li> <li>2. 院内医療安全の推進に係る医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会、医療問題検討委員会、医療事故調査委員会等で用いられる資料及び議事録の作成保存、庶務に関すること。</li> <li>3. インシデント及びアクシデントレポート等に関する集計・分析・調査を行い、医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知を行う。</li> <li>4. 医療事故発生時の対応及び原因究明、診療情報の記載が適切に実施されていることを確認すると共に指導を行う。</li> <li>5. 院内ラウンドを実施して、医療安全に関する周知状況の調査及び部署の改善事項について</li> </ol> </li> </ul>	

必要な指導を行う。

6. 医療安全管理体制を確保するための職員研修の企画・運営を行い、実績を記録する。また、職員の医療安全向上状況に関する意識の認識についてモニタリングを平時から行う。
7. 医療安全対策委員会の構成員及び必要に応じて各部門の医療安全管理の担当者等を参加させて医療安全対策の取組に係る評価等を行うカンファレンスを週1回程度開催する。
8. 医療安全管理部門の構成員による医療安全対策推進に関するカンファレンスを週1回程度開催する。
9. 医療安全相談に関し、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いを記録する。
10. 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例について、職員へ周知を行う。
11. その他、医療安全対策の推進に係る指導と連絡調整等に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

#### ⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 6 件）、及び許可件数（ 6 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（  ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
  1. 申請内容を確認し評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否及び実施を認める条件等について意見を求める。
  2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請者に対しその結果を通知する。
  3. 提供された高難度新規医療技術を定期的に確認し、患者が死亡又は重篤な合併症を発生した場合に診療録等の記載内容を確認する。
  4. 高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況を確認し管理者に報告する。
  5. 関係する資料、記録を5年間保存する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（  ・ 無 ）

#### ⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 0 件）、及び許可件数（ 0 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（  ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  ・ 無 ）

有無（ ・無 ）

・活動の主な内容：

1. 申請内容を確認し評価委員会に対して当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否及び実施を認める条件等について意見を求める。
2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等について決定し、申請者に対しその結果を通知する。
3. 提供された未承認新規医薬品等を用いた医療を定期的に確認し、患者が死亡又は重篤な合併症を発症した場合に診療録等の記載内容を確認する。
4. 未承認新規医薬品等を用いた医療が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況を確認し管理者に報告する。
5. 関係する資料、記録を5年間保存する。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年313件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年40件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

院内における医療安全管理対策を総合的に立案及び実施するため、各部門の安全管理のための責任者で構成される。院内で発生した医療事故、及び全死亡例の検証等を行い報告が適切に行われているかを確認し、その結果を病院長へ報告する。月2回開催されるとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催される。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り（ （病院名：日本医科大学付属病院）・無）

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ （病院名：日本医科大学付属病院）・無）

・ 技術的助言の実施状況

助言内容：「インスリン用注射器保管場所に商品名の記載があり、表示を統一する。」  
実施状況：院内のインスリン用注射器保管場所の商品名を削除し表示を統一した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

患者相談支援窓口を設置し窓口の一本化を図り、患者や家族からの医療安全を含めた様々な相談に対応している。

窓口の設置場所、相談担当者等については、ポスターを院内に掲示している他、入院案内パンフレット、病院ホームページにも掲載し周知を行っている。

月1回、各担当者が集まり合同カンファレンスを開催、さらに電子カルテの「サポート記録シート」を作成し、情報の共有を図っている。

相談内容については、個人情報保護の方針に基づいた取扱いを行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

インシデント・アクシデントの報告ルール、全死亡例の報告、死亡以外一定以上の事例の報告、医療安全情報報告システム（内部通報窓口）の説明

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ※管理者、医療安全管理責任者  
H29年度特定機能病院管理者研修会受講
- ※医薬品安全管理責任者  
平成29年度 医薬品安全管理責任者等講習会
- ※医療機器安全管理責任者  
第38回ME技術講習会

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）



規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容            病院の重要事項である管理運営方針、中期計画、予算等を審議し、本学病院の設置目的、医療提供の理念及び基本方針に基づく管理運営を的確かつ円滑に行う。</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況            病院運営会議で承認された事項は、病院部科長会並びに病院連絡会において報告され、職員への周知を行っている。</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</li> <li>・ 公表の方法</li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
北山 道彦	○	医師	病院長
横山 仁		医師	副院長
坂本 滋		医師	副院長
伊藤 透		医師	副院長
辻 裕之		医師	副院長
犀川 太		医師	副院長
中村真寿美		看護師	副院長（看護部長）
山下 和夫		事務職	副院長（病院事務長）
島崎 猛夫		医師	医療情報部長
神戸 晃男		理学療法士	医療技術部長
丹羽 修		薬剤師	薬剤部長
石田 豊司		事務職	事務局長（病院長補佐）
亀井 淳平		事務職	病院事務部長
浜本 啓行		事務職	医事担当副部長
山野 清一		事務職	診療情報担当副部長
西島 大輔		事務職	病院管理課長
堀 有行		医師	オブザーバー（医学教育学）

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）  
現在、権限に関する規程を作成しており、人事・予算執行など必要項目を検討しており、H31年中に制定し、また公表する予定である。
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
金沢医科大学病院副院長任用規程  
副院長（診療、ドック、危機管理、医療情報、中央手術部、医療連携、医事、医療安全、総務、臨床教育、渉外業務、看護、病院事務）  
金沢医科大学病院病院長補佐任用規程  
病院長補佐（病院業務一般）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
現在、特定の人員を配置しておらず、今後についても検討中である。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 金沢医科大学病院における医療安全管理の取組状況について医療法施行規則第9条の23第1項第9号の規定に基づき監査を行い、必要な是正措置を含む助言及び指導等を行う</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</p> <p>・ 公表の方法： 金沢医科大学病院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山崎 光章	富山大学附属 病院 麻酔科教授	○	医療安全業務従 事者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
鶴澤 剛	金沢大学大学 院法務研究科 准教授		法律学業務従事 者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
市川 政枝	金沢星稜大学 人間科学部 元非常勤講師		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

専門部署等の設置に向け、検討を重ねておりH31年中に整備予定である。

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 H31年中に体制を整備する予定である。</li> <li>・ 会議体の実施状況（年回）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年〇件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 大学のイントラネットに掲載。</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 病院機能評価機構 (一般病院2 3rdG Ver. 1.1) 平成30年1月22日更新認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院の理念、基本方針や自院の役割、診療機能等を病院広報誌やホームページで情報発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 電子カルテによる診療科の他科外来への対診依頼体制	